

樹木だより

おがらばなの果穂

仕事で山歩きするときには、高木を手がけることが多いので、あまり高くまで登ることは少ない。たまに、年に1～2回ていどだが、山登りして、森林を抜け、見晴しのよい高山帯で、低木や草花とお話するのは実に楽しい。

オガラバナは、中腹から亜高山帯の移行部分に目につく小高木である。花の咲くころには登らず、いつも垂下した果穂を見る。カエデ類の花序は散房がふつうなのに、これは穂咲きかえでの別名をもつように、1本の長い果軸にたくさんの翼果がついている。翼の開き方は狭い。 (道北支場 斎藤新一郎)

